平成 25 年度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会
第 13 回デザイン分科会 議事録

期　日： 平成 25 年 6 月 27 日（木）～ 6 月 28 日（金）
場　所： 1 日目／ デザイン分科会 本会議
　地方独立行政法人岩手県工業技術センター 大ホール、小ホール、1-A 会議室
2 日目／ 午前：デザインによる復興支援事例の視察研修会
　岩手県沿岸の被災地域（陸前高田市内および大船渡市内）
午後：建築デザインと伝統工芸技術の見学研修会
　関山 中尊寺（〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉衣関 20）
主　催 ： 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 デザイン分科会
独立行政法人 産業技術総合研究所
地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

◆デザイン分科会 本会議（13：00～17：10）
（進行：地方独立行政法人岩手県工業技術センター企画支援部 小林正信）

1．開　会

2．挨　拶

デザイン分科会長 榊谷 幹雄（三重県工業研究所）

今回は昭和 52 年以来 36 年ぶりの岩手県開催と聞いています。おそらく参加されている全員にとって初めての岩手県開催です。開催準備頂いた岩手県工業技術センターの皆様に感謝します。先の東日本大震災から 2 年以上が経過しましたが、なお記憶に新しく、被災された皆様にお見舞い申し上げます。また、復興へご尽力されている皆様に敬意を表します。岩手県工業技術センターさんには復興支援の中でご多忙のところ本分科会の開催および沿岸視察も予定して頂き感謝します。

さて、私共デザインの分科会に属する担当者が、各地元機関において果たすべき役割について少し話します。私は産技連の活動では本分科会の他にナノテク材料部会傘下のセラミックス分科会のデザイン担当者会議に所属しています。窯業系はそちらの会議がメインで、丁度本分科会と同時期に開催しています。毎年そちらの会議では、「陶＆くらしのデザイン展」という試作品展を開催しており、今年度 50 週年という節目です。展示会では毎年の研究成果や企業様に提示する試作品の展示をしています。そのため私もここ1ヶ月間は展示会のための制作を進めており、デザイン担当者として職人的仕事をする時間も比較的多い状況です。以前はこのデザイン分科会でも全試展という展示会を開催していたと聞いていますが、開催負担が大きいなどの理由で無くなりました。しかし、そのような発表の場も必要という意見もあり、昨年からポスターセッションという形で研究成果の発表をすることになりました。各機関での状況も違いますが、我々の業務ではデザインのコーディネータ的な役割とデザイナーとしての職人的な役割の 2 つがあると思います。私共の機関は職人的役割も担っていますが、この先機関あるいは本分科会の中でどうやって役割を担っていくのかを考えています。そこで、これまでの経験から、デザイン分科会の皆様も特許庁の意匠登録制度をもっと活用されると良いと思います。特許庁の制度は皆様もよくご存知と思いますが、意匠登録することで各機関や各県の権利として保持し、企業様や共同研究先との実施許諾契約することで実施料収入や成果事例を挙げることができます。そのような活動を通じてデザイン担当者の存在意義を確固たるものにしていくということを提案させて頂きます。平成 14 年の佐賀県での担当者会議で、公設試におけるデザインセクションのあり方を討議しました。非常に参考になるので、皆様にもデザイン分科会のホームページから資料をダウンロードしてご覧頂きたいと思います。この分科会の活発な活動が続くことを願っています。それでは、今日明日よろしくお願いいたします。

ライフサイエンス部会副部会長　宮田なつき（(独）産業技術総合研究所 ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋｭｰﾏﾝ工学研究ｾﾝﾀｰ）

1 年前に前任の橋本さんから引き継ぎ、今回で 3 回目の参加となります。これまでお会いしたことのない方がいらっしゃいましたら、後ほどご挨拶したいと思います。

私は人間の手のモデルを設計に生かすという研究を行なっており、主に大企業のデザインとの絡みもありますので、皆様と情報交換出来ればと思います。

今日明日よろしくお願いいたします。

（地独）岩手県工業技術センター副理事長　小山　康文

ようこそお越しくださいました。私は昭和 52 年に岩手県庁に入りましたので、前回の岩手開催年を聞き「じぇじぇじぇ」と驚きました。NHK 朝ドラの「あまちゃん」をご覧になっている方もいらっしゃると思いますが、ドラマは平成 20 年頃の岩手県久慈市を舞台にスタートしております。個人的には NHK が東日本大震災津波の被災地を応援しようとやってくれたのだと感謝しております。岩手は今「じぇじぇじぇ」で盛り上がっておりまして、今年の流行語大賞になるのではないかと期待もしております。久慈市の観光客が実際に増えている状況にあります。皆様方にもぜひ応援して頂きたいと思います。

東日本大震災の話をさせて頂きます。震災は 3 月 11 日でした。本県の定期異動内示の日だったということもあり、県職員の犠牲者がいなかったのは不幸中の幸いでした。マグニチュード 9 というのは世界で過去 4 番目の大きさで、エネルギー的には阪神淡路大震災の 1400 倍でした。そこで引き起こされた津波は 1000 年に 1 度と言われています。東日本の太平洋側は甚大な被害を受けました。震災から 2 年 3 ヶ月が経過して、県で被災地調査をしていますが、事業を再開及び一部再開した企業さんが約 8 割です。ただ、売上が震災前に戻ったのは 6 割程度と厳しい状況です。さらに、事業を再開した企業さんの販路が閉ざされています。事業再開した主に水産加工企業さんには新しい商品が求められており、そこには皆様方が専門のデザイン支援が多く求められている状況です。当センターでは昨年 4 月にデザインや食品、機械の研究員 8 名からなる復興支援プロジェクトチームを立ち上げ、昨年度 250 社を支援させて頂きました。その取組の中で県内教育機関と連携していわてデザインネットワーク・ボランティア（i-DNet）を設立し、これまでに 34 件の商品パッケージデザイン等の支援をさせて頂き、支援企業さんからは販路開拓等に貢献していると聞いています。

JST さんでは去年から特別会計で復興促進プログラムを始められており、宮崎県の食品開発センターさんなど全国の研究機関や大学が岩手の被災地のために研究開発して頂いている事例もあります。また鳥取県産業技術センターさんの紹介で、米子市の株式会社エミネットさんから当センターに、震災年の 7 月より定期的に 6 回ほど寄付を頂いております。このように全国から支援頂いておりますので感謝申し上げます。

明日、沿岸を視察頂きますが、復興には程遠い現状です。ぜひ状況をご覧頂き、各機関に戻られてお伝え頂きたいと思います。そして、三陸沿岸は観光地でもありますので、これからもご家族や友人とお越し頂ければと思います。最後に、本会が刺激的な会になり、また岩手県にお越し頂くことを期待します。

経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課デザイン政策室　外山　雅暁

前回のデザイン分科会も参加させて頂きましたが、現場と付き合っている皆様のお力はデザイン政策を進めるうえで非常に重要だと感じました。私もデザインを学んだ後に現職での仕事を 1 年経験し感じたことと、今後進めていく政策について説明させて頂き、皆様と意識を共有したいと思っています。

1 年間経営者を含めた現場の方とお話させて頂き、皆様や経営者やデザイナーが使っている「デザイン」という言葉の意味がそれぞれ異なっているのが一番問題だと感じました。そこで、経済産業省が考えるデザインの定義をご説明したいと思います。まず現場で消費者を観察することで「気づく」こと、そして気づいたことに対してアイデアを「考える」こと、そしてよくデザインと表現される「作る」こと、そして広告宣伝してブランディングしていく「伝える」こと、それらすべてがデザインであるということを明確にしたうえで、デザイン政策について語る必要があると考えています。今まで「作

る」ところが経営者からはデザインだと言われていたところを、このプロセスがデザインだと話をすることで通じることが多くなると考えています。その意識の共有の一つとして、先月デザイン行政担当者研修を行いました。過去にも同様の研修があったとも聞きましたが、現状として各地域の県や公設試、経産局の担当者が一同に集まる場がなかったので、デザインの意識共有と政策の共有、現在起こっているトピックを共有するために行いました。この場の何名かの方にも参加頂きましたが、少し手応えを感じており、今後も続けていきたいと考えています。是非皆様にもご参加頂き、地方に戻って広めて頂きたいと考えています。

もう一つご紹介します。現在、デザイン思考活用促進検討委員会というものを行なっています。私が皆様と勉強会をしたいということで始めましたが、現在 45 名を超えたメンバーが同じベクトルであると感じでいます。委員はデザインのことは分かっているが経営や企画の立場の方々です。そういう方々に集まってもらい、形をつくるデザインではなく、経営の中でデザインの考えがどう活かせるかということを議論していただだいています。アメリカの IDEO や P&G、ダイソンの例など、デザイン的方面から企業のイノベーションを起こすことが経営者にとって響きやすい言葉なので、経営者にとってデザインがどう売り込めるかということを検討しているものです。アメリカのスタンフォードや IDEO で成功しているデザイン思考は日本型の組織では受け入れてもらえない現状なので、いかに日本型として入れ込むことができるかを今検討しています。これまで無償で行なっていましたが、今年後半から予算化して報告書もまとめる予定です。引き続き来年度事業として行なっていきたいと考えています。具体的な事業内容の一つとして、大企業のインハウスデザイナーを外に出すことをやりたいと思っています。いくつかの企業には内諾頂いています。私がデザインを学んだ頃は優秀な学生は自動車会社に入社しました。彼らが入社して 10 年経って何をしているかといえば、ハンドルやホイールなどパーツのデザインを行なっています。それは日本型の縦割りがそうさせているのであり、本来デザイナーの仕事といえば、先ほど榊谷さんが言われたようにデザインの専門性を縦軸にして横のコネクションを創っていくことだと思っています。大学で皆さんも消費者ニーズを調査してどういうものにするかまで勉強されたと思いますが、企業に入るとそれができなくなってしまっている状況があります。そういうことをもう一度思い出す、もしくはその能力をちゃんと企業に見せるために、例えば大企業のデザイナーに地域の中小企業に行って頂いて全ての工程に関わる製品開発をして頂く。それにより、中小企業支援にもなり、且つ大企業に戻った時にデザイナーにはこんな能力もあるということを見せられる仕組みをつくりたいと考えています。それには大企業と中小企業のマッチングが重要になってきます。皆様に是非協力頂きたいのですが、そういうことに興味のある地域の中小企業などの情報を私共に頂ければと考えています。

最後にご紹介しますが、日本でもデザイン思考を学ぶ大学がかなり増えてきています。東京大学の i.school は皆様ご存知と思いますが、今年の 4 月からは京都大学や立命館大学にもデザインを研究するところができました。こういった大学で将来経営者や企画をする人間がデザインを学ぶという認識が出てきているところです。こうなると、美大やデザインをやっているデザイナーが変わっていかないと将来的に彼らが求める人材になれないんじゃないか、という危惧があります。皆様にもこういった視点を持ったデザイナーになって頂き、そういう人材を育てる環境づくりにご協力頂きたいと思います。

3．議　事

議長選出

岩手県工業技術センター　藤澤　充理事兼企画統括部長を選出。

1）連絡事項

デザイン分科会長　榊谷　幹雄

お配りした平成 25 年春デザイン分科会資料の「1　デザイン分科会としての取り組みに関する課題」から説明させて頂きます。ここに書いてあることは先ほど少しお話したこととも関係します。

まず、「研究成果普及やビジネスマッチング、そして外部競争的資金獲得等に繋げる取り組み」です。これは大上段に構えたテーマですが、産技連からは、デザイン分科会の中でこうした取り組みが外部資金の獲得に繋がる例が求められています。このような成果があればデザイン分科会としての地位や位置づけがよりはっきりしますので、こういった活動を継続して模索していきたいと考えています。これには毎年秋に開催している研究成果発表会やポスターセッションも含まれます。

先ほど少しお話した「公設試におけるデザインセクションのあり方」については、各機関の中でデザインのセクションが継続していくために、この先も議論をして伝えていくことが必要だと考えています。

それから、「各ブロックでの独自取り組み活動の推進」についてです。これに関しては特に九州や近畿ブロックでは比較的会議や活動を行っていると聞いています。私の東海ブロックも他県の担当者や所在もよく知らない状況ですので、九州や近畿以外の各ブロックでも活動を続けて頂きたいと思っています。

「デザイン分科会独自のWEBサイト」については、滋賀県の野上さんに構築して頂きました。こちらの利用の活性化も図っていきたいと考えています。先ほどの公設試デザインセクションのあり方に関する冊子や分科会議事録など過去の資料も格納されていますので、是非ご活用ください。

最後に、一番大きな課題である「こらぼん」に関してです。昨年度「こらぼん」vol.2の原稿募集を開始して、たくさんの原稿を頂きました。その先どうなっているのかという問い合わせも頂いていますが、本日の時点で完成していません。お詫び申し上げるとともに、現在の状況をご説明します。「こらぼん」vol.1は本日もう一度皆様にお配りしました。300部ほど増刷して私の手元にありますので、もう少し有効活用していくために、本日お配りした他に50部ほど持参しました。是非ご所属の県庁主管部署や上部機関、産業支援センター等に各機関からお送り頂いて、こういうものがあることを宣伝して頂きたいと思います。「こらぼん」vol.2については、昨年度末まで〆切が延びて、現在23都道府県から77件のデータを頂きました。これ（パワーポイント）は各県の写真データです。山梨県の串田さんにまとめて頂いています。編集委員として「こらぼん」vol.1もほとんど串田さんにレイアウト等して頂きました。「こらぼん」vol.2も印刷製本は難しい状況ですが、今年度なるべく早いうちに電子書籍として皆様に配布できるように編集を続けていきたいと考えています。

次に資料の「2　次期デザイン分科会開催予定」についてです。平成25年度秋の研究発表会は埼玉県開催で影山さんに段取りして頂いていますので、後ほどご案内頂きます。平成26年度の春は東海・北陸ブロックの担当で岐阜県開催です。後ほど大野さんにご案内頂きます。平成26年度秋以降に関しては、お配りした開催県一覧のとおり、輪番制だけは決まっています。開催県一覧には、過去の工芸部会や製品科学連合部会から現在のライフサイエンス部会に至るまでの過去の開催が記載してありますが、それによると本日はいらっしゃいませんが、平成26年度秋は広域関東ブロックの長野県さんの順番になっています。また、平成27年度の春は輪番制では近畿ブロックの京都さんになっています。京都は京都府さんと京都市さんがありますが、どちらが担当というのは分科会からは言えませんので、京都のほうでご検討頂ければと思います。

次に「次期デザイン分科会長の予定」ですが、これも輪番制で次は近畿ブロックです。近畿ブロックにお願いしたところ、近畿ブロック内での取り決めにより、次は大阪府から分科会長を選出するようで、川本さんにお願いすると聞いています。川本さんを承認頂くのは次の埼玉の分科会になります。よろしくお願い致します。

「4　デザイン分科会運営要領第6条関連」は、輪番順についてですが、デザイン担当者が不在の県が増えてきています。記載以外にもデザイン担当者が不在のところがあるようです。そのあたりを是非活性化して、この分科会からも出席されてない都道府県になるべく声掛けをして参加を促していきたいと考えております。資料の最後には、広域関東の秋の分科会の順番を載せています。

資料の裏についてです。まず、デザイン分科会の役員名簿を掲載しています。副会長ですが、岩手の小林さんは今回の分科会までとなります。埼玉の影山さんは秋まで努めて頂きます。岐阜県の大野さんに来年度の岐阜開催までを担って頂きます。4年前に北海道の及川さんに要領をしっかり定めて頂きましたが、ブロック幹事については2年任期で再任は妨げないとなっています。現在のブロック幹事さんにはもう1年続けて頂くことになります。ただ、近畿ブロックは、ブロック内の取り決めで今年度から福井県の清水さんに交代しています。

継続型研究交流会幹事については、ものづくりデザインの滋賀県の野上さんと地域デザイン振興の広島市の寺戸さんはひき続きです。ユニバーサルデザインは今年度から静岡県の多々良さんにお願いしています。

なお、運営要領および運営細則についても例年どおり資料として添付してあります。以上です。

質疑等

<u>**滋賀県工業技術総合センター　野上　雅彦**</u>

和歌山県さんは担当者がいないのではなく、担当者はいるが予算的理由もありデザイン分科会から抜けられている状況です。

<u>**デザイン分科会長　榊谷　幹雄**</u>

そうすると輪番も難しい状況ですね。是非復活して頂くようにブロック内でも声掛けをお願いします。

2）研究交流会

ものづくりデザイン研究会 （小ホール）

	機関名	所属セクション	氏名
1	滋賀県工業技術総合センター	機械電子担当	野上　雅彦(幹事)
2	経済産業省	商務情報政策局クリエイティブ産業課デザイン政策室	外山　雅暁
3	(地独)北海道立総合研究機構工業試験場	製品技術部	及川　雅稔
4	(地独)青森県産業技術センター弘前地域研究所	生活技術部	小松　勇
5	宮城県産業技術総合センター	商品開発支援班	伊藤　利憲
6	(地独)東京都立産業技術研究センター	システムデザインセクター	上野　明也
7	神奈川県産業技術センター	技術支援推進部商品開発支援室	守谷　貴絵
8	岐阜県工業技術研究所	企画調整課	大野　尚則
9	京都府中小企業技術センター	応用技術課	加悦　秀樹
10	(地独)鳥取県産業技術センター	産業デザイン科	亀崎　高志
11	宮崎県工業技術センター	企画・デザイン部	川添　康正
12	沖縄県工業技術センター	生産技術研究班	宜保　秀一
13	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	長嶋　宏之
14	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	内藤　廉二

ものづくりデザイン研究会での情報交換

地域デザイン研究会 （大ホール）

	機関名	所属セクション	氏名
1	(公財)広島市産業振興センター	デザイン開発室	寺戸　　毅(幹事)
2	(地独)北海道立総合研究機構工業試験場	デザイン・人間情報グループ	日高　青志
3	山形県工業技術センター置賜試験場	特産技術部	羽生田　光雄
4	埼玉県産業技術総合センター	事業化支援室製品開発担当	影山　和則
5	千葉県産業支援技術研究所	生産技術室	岡村　成将
6	(地独)東京都立産業技術研究センター	システムデザインセクター	角坂　麗子
7	神奈川県産業技術センター	技術支援推進部商品開発支援室	小堀　　誠
8	山梨県工業技術センター	デザイン技術部	鈴木　文晃
9	岐阜県工業技術研究所	企画調整課	小川　行宏
10	静岡市経済局商工部地域産業課	地場産業担当	頭師　雅之
11	三重県工業研究所	窯業研究室 伊賀分室	榊谷　幹雄
12	奈良県産業振興総合センター	生活・産業技術研究部	澤島　秀成
13	(地独)鳥取県産業技術センター	産業デザイン科	萩原　万葉
14	佐賀県工業技術センター	研究企画課	川口　比呂志
15	大分県産業科学技術センター	製品開発支援担当	佐藤　幸志郎
16	岩手県商工労働観光部	産業経済交流課	五日市　由美
17	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	茨島　　明
18	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	氏家　　亨
19	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	八重樫　幾世子

地域デザイン研究会での情報交換

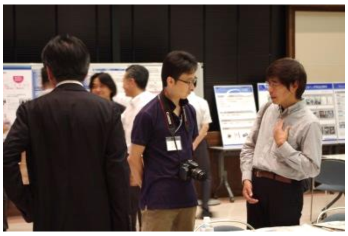
ユニバーサルデザイン研究会 （1－A 会議室）

	機関名	所属セクション	氏名
1	静岡県工業技術研究所	ユニバーサルデザイン科	多々良哲也(幹事)
2	(独)産業技術総合研究所	デジタルヒューマン工学研究センター	宮田　なつき
3	(独)産業技術総合研究所	関西センター　関西産学官連携センター	山中　和広
4	(一社)人間生活工学研究センター		畠中　順子
5	(地独)青森県産業技術センター弘前地域研究所	生活技術部	工藤　洋司
6	大阪府産業デザインセンター		川本　誓文
7	(地独)鳥取県産業技術センター	産業デザイン科	谷岡　晃和
8	広島県立総合技術研究所西部工業技術センター	生産技術アカデミー	横山　詔常
9	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	有賀　康弘
10	(地独)岩手県工業技術センター	企画支援部	小林　正信

ユニバーサルデザイン研究会での情報交換

3）ポスターセッション（大ホール）

No.	タイトル　（機関名）
1	HQL 人間生活工学実験倫理審査事業紹介　（一般社団法人人間生活工学研究センター）
2	デザインマネジメント人材育成の取り組み　（北海道立総合研究機構工業試験場デザイン・人間情報 G）
3	埼玉県春日部桐箱の農商工連携事業　（埼玉県産業技術総合センター）
4	ちば戦略的デザイン活用塾　（千葉県産業支援技術研究所）
5	システムデザインセクターの支援　（地方独立行政法人東京都産業技術研究センター）
6	FAB による新商品開発　（地方独立行政法人東京都産業技術研究センター）
7	新たなべっ甲商品の開発　（地方独立行政法人東京都産業技術研究センター）
8	ブランド確立実践ワークショップ　（地方独立行政法人東京都産業技術研究センター）
9	戦略的商品開発支援事業の支援事例　（神奈川県産業技術センター）
10	大学生と県内企業のデザインコラボ-インターンシップでの製品開発提案 2002～2012　（静岡県工業技術研究所ユニバーサルデザイン科）
11	ものづくり感性価値を高めるための開発手法に関する研究　（滋賀県工業技術総合センター機械電子担当）
12	KIDS　DESIGN　AWARD　2013　（大阪府産業デザインセンター）
13	鳥取県産業技術センター施設紹介　（地方独立行政法人鳥取県産業技術センター電子・有機素材研究所　産業デザイン科）
14	感性×広島　「感性」ものづくり支援/振興　（広島県立総合技術研究所西部工業技術センター生産技術アカデミー）
15	産業デザイン展広島　2013　デザインが広げる豊かな食の世界　食とデザイン　（(公財)広島市産業振興センターデザイン開発室）
16	商品づくりのお手伝い　グッドデザイン商品創出支援事業　（大分県産業科学技術センター）
17	CG 活用によるデザイン支援事例　（宮崎県工業技術センター）
18	陶器および石膏型製作プロセスのデジタル化　（沖縄県工業技術センター生産技術研究班）
19	自操式水陸両用車椅子の開発　（沖縄県工業技術センター生産技術研究班）
20	いわてデザインネットワーク・ボランティアによる復興支援　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
21	地域資源を活かした商品デザイン～普代村の新商品ができました！～　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
22	カスタムフィット医療器具の開発　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
23	脳外科手術用ピンセットの開発　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
24	鋼製小物の操作性に関する研究　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
25	木に模様を浮き上がらせる技術で特許を取得しました　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
26	特許技術を活用した、新「平泉」のストラップの開発支援　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
27	コンプウッドシステムによる曲げ木を活かした製品開発　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
28	木材を自由変形する新しい加工技術　-コンプウッドシステムの活用研究-①　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）
29	木材を自由変形する新しい加工技術　-コンプウッドシステムの活用研究-②　（地方独立行政法人岩手県工業技術センター）



ポスターセッションでの情報交換

4）全体会議（大ホール）

各研究会の報告と全体討議

ものづくりデザイン研究会

幹事：滋賀県工業技術総合センター　野上　雅彦

まず全体的な各機関の動きとして、地場産支援で始まった各試験場のデザイン部門の対象が、コンテンツや地場産を外れた製品開発などの方向に大きく変わってきているというのが挙げられます。3 次元 CAD や 3D プリンタといった、デジタル化が進んできている製品開発の中での技術支援が日々求められていると皆さんの報告にありました。また、製品開発だけでなくマーケティングやブランドづくり、デザインマネジメント等の方向に支援内容が移行してきていることが最近言われています。さらに、売っていく側の支援、つまり、プロモーションやユーザーへ商品の魅力をいかにして伝えるかというが非常に求められており、取り組んでいかねばならないとの報告が多数ありました。最後に、3D プリンタは旬な話題なので、各機関さんの導入機械及び料金設定などを情報交換しました。導入されている機器は各機関さん様々ですが、料金は材料費抜きなら 2,000 円／時間位＋材料費、材料費込みなら 4,000 円／時間位というところが多いようでした。この機械も非常に入れ替わりが激しいので、今年度や来年度に導入計画もされている機関もあるようです。

地域デザイン研究会

幹事：（公財）広島市産業振興センター　寺戸　毅

地域デザイン研究交流会では、前もってメーリングリストでテーマを流しました。「変化と進化」をテーマに、公設試もどう変化進化していくべきかについて話しました。ものづくりデザイン研究会の報告を聞いて、結構似た話になっていると思いました。3D プリンタの話も出ましたが、公設試によって事情は異なりますが、職人的なハードウェアのデザイン指導をしている一方で、商品開発上の入口から出口まで、販路に至るまでのコーディネーター的役割も必要になってきており、場合によってはその両方が必要になるという話が出ました。公設機関の存在意義というのが以前から言われていますが、最近は後者の商品開発の入口から出口までのコーディネーター的な役割がクローズアップされてきています。企業さんとデザイナーの間に入るハブ的な役割です。この公設機関の存在意義というのが古いようで全然古くない課題で、今後も議論していく必要があるということになりました。あと、公設試の人員の確保が益々深刻になってきており、人数では進化よりもむしろ退化しているのではないかという意見もありました。たまたま地独化しているいくつかのところでは比較的人が入っていましたので、地独化したほうが人を確保しやすいのかという話も出ていました。

ユニバーサルデザイン研究会

幹事：静岡県工業技術研究所　多々良　哲也

今年度から幹事を務めさせていただく静岡県の多々良です。ユニバーサルデザイン研究会では、まず私から最近の取り組みであるインターンシップの学生と企業のデザインコラボの説明と、ここ 1、2 年のユニバーサルデザイン科の取り組みを紹介しました。

次に川本さんから配布資料について説明してもらいました。キッズプラザ大阪と非常に面白い取り組みをされているということで、昨年紹介されたプレイフルデザインカードを使って、専門学校の学生と一緒にワークショップを行なった報告がありました。

その後、各県の方に最近の状況を説明してもらいました。広島の横山さんからも配布資料がありました。最近の取り組みとして流動性技術を使った製品開発の報告がありました。6 月 30 日に放映されるということでした。また、産総研との取り組みであるデジタルハンド、個人向け手袋のテーマを紹介していただきました。最後に岩手県の小林さんから最新成果集について紹介していただきました。

提案・要望事項

なし

次期開催県の挨拶

<u>埼玉県産業技術総合センター　影山　和則</u>

秋の研究発表会は埼玉県が輪番制で担当になりました。メーリングリストでもお知らせしましたが、すでに日程が 10 月 25 日に決定しています。私どものセンターは川口市ですが、会場は、埼玉県内の良い場所を検討して、埼玉市に一昨年出来た盆栽美術館の研究室を借りて開催するという趣向にしました。埼玉市ですので大宮駅で交通の便は良いところです。近くに鉄道博物館がありますので、前泊の方や朝来られる方は、10 時ぐらいから是非オプションに参加していただいて午後から研究発表会にご参加ください。懇親会は大宮駅周辺を予定しています。是非多くの研究発表をしていただきたいと思います。ご案内いたしますのでご参加のほどよろしくお願いいたします。

次年度開催県の挨拶

<u>岐阜県工業技術研究所　大野　尚則</u>

岐阜県工業技術研究所の大野と申します。今回小川と 2 名で参加いたしましたがデザイン担当ではありません。県に 4 人デザイン職がいますが今回は多忙で参加できず申し訳ありません。来年度岐阜県での開催時には我々が窓口事務的な運営で、デザイン担当に運営してもらう予定です。内容は、1 日目は今日のような形式ですが、2 日目についてデザイン担当とも相談しています。岐阜というと地理的に位置がわからない方もいるかもしれませんが、世界遺産の白川郷や飛騨の高山、長良川の鵜飼いなど見る場所はたくさんあります。地場産業に関しても陶磁器の多治見やアパレルの岐阜、美濃の和紙、飛騨の木工、関の刃物など色々あります。高山などメジャーな観光地は、観光や別の分科会などの違う機会に行ってもらえらば良いかと考えています。今回は我々工業技術研究所が刃物の関にあるということで、非常にマニアックな刃物づくしの視察会を企画したいと思っています。豊臣秀吉や武田信玄の刀を中心につくっていた関の孫六兼本という刀鍛冶がいたそうですが、その作り方を代々受け継いで今も関の孫六が有名です。そこで、刀鍛冶の実演も含めた刀の作り方、刀の身の部分から鞘のデザインなどの講師を呼びたいと考えています。また、ガーバーナイフ博物館というところがあり、ナイフでも世界的に有名な所です。貝印さんやフェザーさんなどカミソリや手術用刃物で有名な企業さんもあります。地場産業とデザインということで長谷川刃物という地場産業から文房具などの新しい商品を開発している企業さんの事例もあります。朝から夕方まで刃物三昧という見学会を企画しています。他の内容の希望があれば後でお知らせくだされば、企画変更することも検討します。岐阜は丁度日本全国の人口重心、関市が丁度人口重心のようです。どこからも近い、ただどこからも結構遠いかもしれないという所ですが、是非この機会に岐阜までお越しください。

その他

<u>デザイン分科会長　榊谷　幹雄</u>

冒頭ご説明した話について、何点か補足します。まず、「こらぼん」に関してですが、先ほどお話ししたとおり「こらぼん」vol.2 の編集がまだ進んでいません。実をいうともう少し原稿がほしい状況です。まだご提出されてない県がございましたら是非1件でも多くご提出頂けたらと思います。データの出し方やサイズがわからない場合は私や山梨県の串田さんからお知らせできます。あるいは先輩方に聞いて編集にぜひご協力ください。それから、「こらぼん」vol.1が本日まだ50部ほどあり、各機関2部ずつ持っていっても大丈夫な数です。各県各機関の中で回覧いただく、あるいは他の目につくところに置いていただくという形で是非ご活用ください。

次に、先ほど小林さんからお知らせありましたが、今回のポスターセッションのデータは来週中に小林さんにお送りいただくようお願いします。小林さんにまとめていただきメーリングリストで配布したいと思います。

もう一つ HQL の畠中さんよりアンケートについてご説明をお願いいたします。

(一社)人間生活工学研究センター　畠中　順子

皆様のお手元にお配りした人体寸法形状データの調査へのご協力をお願いします。HQL では 1992 年の大規模計測から 2004 年の 2 回目の大規模計測と、約 10 年に一度大規模計測をしております。2004 年は経産省さんの事業として実施することができました。それから 10 年ぐらい経過してますので、新しいデータの問い合わせも来ております。新しいプロジェクトの企画をするにも、皆様のニーズを集めたいと思っていますので、是非ご協力いただければと思います。今日お配りしているのは、組織としての回答ではなく、日々の皆様の業務範囲での活用状況や欲しいデータという個人の意見で結構です。よろしくお願いいたします。

(地独)北海道立総合研究機構工業試験場　及川　雅稔

確認を兼ねて榊谷分科会長にお聞きします。冒頭で分科会としての取り組みの課題を 6 つほど挙げて頂きました。最後の「こらぼん」については、今後再度の原稿募集を含めて、今、鋭意編集に向けて努力されているというお話でした。それ意外の項目も一つ一つが重くて大事な課題だと思います。もし、私案も含めて、今後分科会としてどういうふうに課題へ取り組めば良いのかについて、具体的なアイデアや考え方をお持ちであればご紹介いただきたいと思います。

デザイン分科会長　榊谷　幹雄

先ほど申し上げた内容は確かにかなり重いものばかりです。特に、公設試におけるデザインセクションの在り方は十数年来協議されていながら、なかなか確固たる解答がある訳でもないというところです。分科会の取り組みとしては、残念ながら今は自分からのアイデアがない状況です。産技連からも、デザイン分科会として具体的な成功事例を出してほしいと求められているという話をしました。作って頂いた「こらぼん」はその成果として十分とは言えないかも知れませんが、非常に目覚ましい成果であるという評価も頂いています。それに続く、あるいは新たな取り組みがあったらと思いながら、具体的なアイデアには至っていません。こ是非皆様からも、分科会でこんなことをしたらいいのではないか、というご意見を頂きたいと思っています。

(地独)北海道立総合研究機構工業試験場　及川　雅稔

突然難しい質問を投げかけて申し訳ありませんでした。実は「こらぼん」の編集作業の中で、ブロック幹事さんの力を得ながら進めていく、という取り組み方を榊谷分科会長が仕掛けられています。おそらく大勢が集まって考えるのはなかなか難しいと思います。各ブロック幹事さんには過去に分科会長をされた方など意欲的な方も揃っていますので、幹事さんでメール等での情報交換も生かしながら、先ほど挙げられた課題への具体的な対応アイデアを探っていくことも可能かなと思いました。私もブロック幹事の一人なので、何か役立てればと思っています。古くからの重要な課題に対してどういう取り組みができるかということについて動き始められればと思います。よろしくお願いします。

議長

他の分科会でもウェブサイトを作ったりしていますが、一旦作ってしまうとなかなかメンテが行き届かなく使われなくなってしまいます。メーリングリストとかいろいろ工夫をしながら更新をしていくのが大事かと思います。

デザイン分科会長　榊谷　幹雄

野上さん、よろしければメーリングリストとウェブページに関してご説明いただけますか。

滋賀県工業技術総合センター　野上　雅彦

今、ホームページやメーリングリスト、「こらぼん」の話が出ています。先ほど、議長よりホームページを更新しなくなるというお話をいただきましたが、そのとおりです。そのために分科会ホームページは Wiki というシステム

で作りました。Wiki というのは誰もが見ている端末から内容更新できるシステムです。Wikipedia を皆さん利用していると思いますが、あれも誰もが内容更新できます。分科会ホームページを作ったのは、まだ Wikipedia もない時代で、正直編集しにくい部分もありました。Wikipedia も出てきたので、皆にもっと触ってもらえるかと思いましたが、実質ほとんど誰にも情報を更新してもらえず今に至っています。もう少し使いやすい CMS に作り直しても良いと思っています。さっきの「こらぼん」の話も、ネット上で「こらぼん」も入力するようにして、CMS でテンプレート化して写真等登録すれば、ある程度フォーマットを整えて表示することも簡単にできます。常々そういう方法があると思っていますので、何かきっかけがあればそういう取り組みをしても良いかと思います。

<u>デザイン分科会長　榊谷　幹雄</u>

今作っている「こらぼん」vol.2は、印刷するのが難しく電子媒体でという話です。これも、ウェブページのほうに載せることは可能でしょうか。

<u>滋賀県工業技術総合センター　野上　雅彦</u>

PDF で載せるのはもちろん簡単ですが、そうではなくて CMS の中にテンプレート化して写真と文章を流し込めばそれなりの体裁で、検索したり順番にパラパラ見たりできます。追加や修正もいつでもできます。そういうシステムにするべきだと思っています。

<u>デザイン分科会長　榊谷　幹雄</u>

わかりました。ありがとうございます。

<u>神奈川県産業技術センター　小堀　誠</u>

ご参考までにお話します。及川さんの後を引き次いで分科会長をやらせていただきました。分科会活動が実のある活動になるために、いろいろ努力しなければなりませんでしたが、何もできないうちに 2 年終わってしまいました。

まず、分科会長を引き受けた時に、所属長からは日常業務に差し支えなければいいと言われました。ということはこの分科会活動が、どれだけ職場というか公設試に対して認知されているのかという事があると思います。せっかくなので「こらぼん」とかいろいろなことをやってきました。「こらぼん」についても、多分串田さんに相当苦労いただいてまとめていただいて形になってきたと思います。これをより良いものにしていくには、「こらぼん」の情報を元にほんとうにコラボしなければいけないと思います。この公設試のデザイン担当者のネットワークというのが非常に財産だと思います。私はまず編集委員の串田さんと、2 人でなにかやろうということで山梨の手彫り印章と箱根の寄木細工で印鑑を作りました。言い訳になりますが、日常業務に追われて、作っただけで皆様にお見せできる状態じゃないですし、商品化に結びついた訳でもありません。ですから、なかなか難しいですが、産技連の分科会活動の事業が日常業務としてどんどんやりなさい、という体制であれば何か面白い取り組みが出来ると思います。一つの思いつきですが、外山さんから経産省の取り組みの中で公設試の中小企業さんを紹介してほしいという要望もありました。そのように国で取り組んでいることとデザイン分科会のメンバーが一緒になって協力できるような取り組みがあれば、公然と仕事として取り組めるのかなと思っています。今後頑張りましょう。

<u>経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課デザイン政策室　外山　雅暁</u>

小堀さんからありがたいお言葉をいただきました。私もまさにおっしゃる通りだと思っています。多分皆さんがほんとに自分たちでやるべきことをやろうとした時に、公設試の中でも説明するのが難しい事があるのではないかと思います。それは私も同様で、経産省の上にあげていくと、何でデザインをやってるんだと言われることも多々あるので、そういう気持ちはすごくよくわかります。そうした時にやはり国の政策がこうなのでこうやるんですという、理由として私をうまく使ってもらえればとすごく思います。この場で言おうかすごく迷いましたが、「こらぼん」はすごくいい取り組みだと思って前々から見ています。しかし、私としては「こらぼん」の出口がわからないというのが正直なところです。「こらぼん」が、こんな活動をしています、という紹介なのか、もしくは「こらぼん」を使

って、こういう取り組みが出来るんです、と企業に訴えるものなのかで作り方も違ってくると思います。中身の文章を読んでも誰に向けた説明のかよくわからないと思いました。個人的に一番良いと考えたのが、例えば中小企業の社長さんへの説明を想定したプレゼンテーション資料です。こういう取り組みをするとこのように企業が変わってこういうふうに収益が変わってくるんですよ、という形にすると、すごく説明のつく資料になると思います。成功事例集のような形ですね。「こらぼん」の企画を考える時に、出口を見据えて作られた方がより効果的だと思うので、そのようなこともご検討頂ければと思います。

議長

「こらぼん」vol.2を作る参考にして頂ければと思いますが、分科会長さんいかがでしょうか。

デザイン分科会長　榊谷　幹雄

外山さんありがとうございます。確かに「こらぼん」に関しては、最初ネタ本という話もありました。企業さんにこんな素材があるが他とのコラボレーションには至ってないので、コラボレーション先を探すネタにするという役割が最初のコンセプトでした。しかし、進めていくうちに、コラボレーションの紹介本でもあるということになりました。産地と産地、あるいは、企業と公設試担当者とのコラボレーションなどの紹介の場でもある、という２つの側面が出てきたように感じています。はっきり明示した訳ではなかったと思いますが、コラボレーション先を探すための提示資料というのが出発点だったと思います。及川さんの時に始められたと思いますが、いかがでしょうか。

（地独）北海道立総合研究機構工業試験場　及川　雅稔

記憶が定かでないですが、地域に眠っている色々な事例資源を皆さんの目に晒して、見てもらえるようなきっかけを作ろう、という程度の発端でした。作っていく中で、もっと情報を入れたらどうか、そのために条件を広げたらどうかということで、少し条件を広げながら進めました。ただ、外山さんからあったように、本当にコラボレーションのきっかけになるメディアとして、これをどう使っていくかというところまで見据えて情報コンテンツを組み立てたか、というと不十分なところがあったと思います。今ご意見を聞いて、今後「こらぼん」vol.3 につなげていく段階で、そういう新しい形式での情報発信も考えるべきかと思いました。実際これを編集していくとなると相当の労力を要します。例えば、中小企業者にとって心に響いてコラボレーションにつながる「こらぼん」のフォーマットや情報を考えるにしてもかなり時間が掛かります。ただ、やらないでいたら、あっという間に時間だけ経ってしまうので、想いを寄せる皆さんで少しでも考え始めるということがとても大事だと思います。ブロック幹事さんで名前を挙げている方々にはそういう想いの方々がいらっしゃると思いますので、まずはそのメンバーで、これで終わりではなく次にどう生かすかという課題として、受けとめて行けば良いかと思います。

議長

「こらぼん」の変化と進化については、引き続き今晩の交流会で議論して頂ければと思います。

千葉県産業支援技術研究所　岡村　成将

地域デザイン研究会に参加しましたが、人がなかなか入らないという皆さんからの意見をお聞きして、行政の人にはデザイン担当者の活動の広さや深さが伝わりにくいというところを感じました。

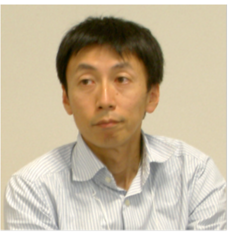
「こらぼん」に関しては、外山さんからどこに向けたものかというご意見がありました。「こらぼん」はモノに落とし込んでいる冊子だと思います。私が思ったのは、宣伝でなく極めて客観的な視線で各県のデザイン担当者の日々の取り組みを載せた活動報告のようなものが出来ればよいと思います。経産省で各都道府県のデザイン事業の予算や事業名をまとめた分厚い冊子があります。それよりも、もう少しソフトな「こらぼん」タッチな感じで、年鑑かある期間で色々なソフト活動の報告などをまとめて、やっていることがうまく見えるような冊子が出来れば良いと思います。「こらぼん」はモノですが、人に落とし込んだ冊子です。たぶん、各県から集めてしまうと、事業報告になってしまって、宣伝になってしまうと思うので、例えばインタビュー形式や地域ブロック幹事がヒアリングを行うなどで、そういった活動を

客観的に見られる本があればと思います。この場ではわかるんですが、デザイン担当者というのはこういうことをやっているんだ、ということがどこかに記録として残せないのかと思いました。

デザイン分科会長　榊谷　幹雄

　岡村さんが言われる通りです。さっき申しましたが、「こらぼん」vol.1 はコラボレーションする素材、ネタを紹介するものでした。「こらぼん」vol.2 では、成果事例あるいは自社のコラボレーションによって生まれた商品などの紹介でもいいという内容のメールを皆さんに流したかと思います。そういう中で、岡村さんのお話された、さらにもう一歩踏み込んで、担当者の仕事の紹介の方向に踏み込んでいくことも可能ではないかと思います。「こらぼん」vol.2 はそういう視点では編集にかかっていないと思いますが、vol.3、vol.4 と行くためにはそういう方向も必要ではないかと思います。

広島県立総合技術研究所西部工業技術センター　横山　詔常



　広島県の横山です。配布資料で、目次季刊中国総研というものがあると思います。広島県では商工施策として感性のものづくりをしていこうということで取り組んでいます。その関係で県からの委託先である中国総研というところが感性とものづくりという特集を組んで冊子を作っています。7月中旬が発行ですので、ご興味のある方は是非担当の方までお問い合わせください。おなじところで、購読会員入会とか書いてありますが、会員にならなくても購入できますので、是非参考にして頂ければ幸いです。

議長

　他に質疑がないので、以上で議事を閉じさせて頂きます。円滑な議事進行にご協力ありがとうございました。

4．所内見学会

　参加者が2グループに分かれて、岩手県工業技術センターデザイン部門の設備を中心に見学した。

5．閉　会

議事録文責
地方独立行政法人岩手県工業技術センター
デザイン部　小林正信